

現存する日本最古の庶民のための学校

旧閑谷学校 講堂 小斎、習芸齋及び飲室、文庫、公門



指定区分	国指定重要文化財(建造物) 国宝
読みかた	きゆうしずたにがっこう
所在地	備前市閑谷
指定年月日	昭和28年11月14日
解説	寛文10年(1670)、岡山藩主池田光政が津田永忠に命じて造らせた庶民教育のための学校で、講堂をはじめとして、小斎、習芸齋及び飲室、文庫、公門からなる。国宝に指定されている現講堂は、元禄14年(1701)に建築されたもので、桁行19.4m、梁間15.2m、一重、入母屋造、本瓦葺(備前焼)である。妻飾りは、中央に墓股[かえるまた]を備え、その左右には面取東上に舟肘木をのせている。軒は一間半繁垂木である。柱材は漆塗りされた檜の丸柱を使用している。
アクセス方法	JR吉永駅から3.5km, JR備前片上駅から7km
公開状況	旧閑谷学校史跡入場:9:00~16:30 / 見学料必要 / 休み:12/29~12/31 [問い合わせ先](財)特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会 0869-67-1436
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定重要文化財(建造物) 国宝
ぶんかざいめい (文化財名)	旧閑谷学校 講堂 小齋、習芸齋及び飲室、文庫、公門
よみかた	きゅうしずたにがっこう
しょざいち (所在地)	備前市閑谷
していつひ (指定した日)	昭和28年11月14日
せつめい	1701年(元禄(げんろく)14年)に建(た)てられた、入母屋造(いりもやづくり)で備前焼(びぜんやき)の瓦(かわら)が美(うつく)しい構内(こうない)で最大(さいだい)の木造(もくぞう)の建物(たてもの)です。国宝(こくほう)に指定(してい)されています。現在(げんざい)、世界文化遺産(せかいぶんかいうしさん)の登録(とうろく)を目指(めざ)しています。